

開催地名	千葉県袖ケ浦市
開催日時	令和5年12月3日（日） 11:10 ～ 12:10
開催場所	平岡公民館
語り部	館合 裕之 （青森県八戸市）
参加者	自治会、自主防災組織、市職員、防災関係機関 100名
開催経緯	自主防災組織の活動について災害に対しての危機感が薄く、あまり積極的な活動が実施できていない現状がある。また、自主防災組織も高齢化が進んでおり、地域の結びつきが弱くなっている。 実際に被災者の方の声を聴くことで、災害に対して共助の重要性を認識していただくため今回の講演を依頼した。
内容	（1）防災への3つの幻想 避難所への幻想 ・「食料や暖かい毛布があるだろう。テレビや電話からの情報もくるだろう。避難所に行けば大丈夫」など。実際は全員に配布できる数が不足していたり、ゴワゴワな快適とは言えない毛布である事もある。避難所も停電する。市の職員も避難している状況である。 防災無線への幻想 ・防災無線が教えてくれるだろうと思っているが、実際には降水量によれば家の中では聞こえない場合がある。 マニュアルへの幻想 ・マニュアルがあるから大丈夫と思っているも、権限のある人が不在でマニュアル通りに出来ないという場合がある。 （2）八戸市役所と69ヶ所の避難所の72時間 平成23年3月11日 14:46 東北地方太平洋沖地震発生（震度5強／強い揺れが6分以上） 14:49～53 気象庁が津波警報発表「青森県太平洋沿岸1m」 15:00 災害対策本部が設置された。 15:06 最大余震発生（震度5弱） 15:14 気象庁は大津波警報へ切り替え「青森県太平洋沿岸3m」と発表した。が、実際は最大10mだった。 15:22 防災無線での避難指示。以降13日まで43回実施している。 15:50 本部へ津波到着情報が入る。 16:10 避難所開設29ヶ所→実際は69ヶ所だった。

	避難所には色々な情報が入って来るが、誤報もあった。 町の被害の状況や予定されていた支援物資の数なども正確には伝わらない状態だった。 避難所によっては役所に頼らず、住民が「炊き出し隊」を結成したり、近所のお店が協力してくれたりした。翌日の12日になると群馬県伊勢崎市より毛布が2000枚届く。13日には停電復旧、新潟県からも物資が届く。 (3) 経験から ・一刻も早く避難指示、避難所開設の指示を出すこと。 ・防災無線を待たず早期の避難開始。防災無線よりも電子メールやエリアメールはともにも有効である。 ・避難所に頼らず自分で情報を得る。 ・公助の力には限界があるので、自助と共助が重要になる。 ・マニュアル作成では「平日、日中、全員いる」の前提で考えない。責任、権限がある人の不在で想定する。 ・わからないところで来る災害に備え、自分の知識をたくさんの人に伝えてもらいたい。  
開催地より	実際に災害が起きた時の避難所の状況や市の対応等についてありのまま伝えていたので、自主防災組織はもとより市職員にとっても参考になった。 マニュアルの作成方法や自主防災組織の活動など館合様にお話しいただいたことを今後の防災活動の参考にさせていただきたい。